



かわい

令和5年10月31日



<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/kawai/>

学び方を求めて

副校長 西原 千輪子

長かった夏が終わり、本格的な秋の訪れを感じます。気が付けば今年も半分が過ぎ、川井小学校最大の行事「全力でがんばろう！かわいっ子運動会」を大盛況の中、無事終えることができました。4年ぶりの紅白対抗戦で、5点の僅差で白組の優勝となりました。一人一人が全力で競技に臨んだり、自分の役割を果たしたりした姿に、児童の大きな学びと成長を感じました。保護者の皆様にはお子さんの健康管理や動画配信による家庭学習など様々なご配慮をいただいたことと申します。感謝申し上げます。

さて、皆さんは人生の中で最も大切にしている本を挙げるとしたら何になりますか。私には座右の本とも言えるものがあります。牧野富太郎さんのコンパクト版「原色牧野植物図鑑」です。現在の価格で5千円以上もするこの図鑑の4冊を初任給でそろえたことを思い出します。私は25年の担任生活の中で、どの学年の児童とも理科や生活科、総合的な学習の時間において一緒に校庭にくりだして、植物を調べる活動に使ってきました。すべてが手書きの植物画で、その分類や系統について大事なところを部分的に図示し、多すぎない説明に、いつ見ても新鮮さを感じ、教え子たちも緑の図鑑と呼んで愛着をこめたものでした。日本植物学の父とされる牧野富太郎さんは、江戸末期から昭和の激動の時代の中にあって、新種の植物を見つけ続け、その研究を成し遂げた方です。この方の人生を朝のドラマで取り上げられたので、9月中は夢中でインターネットで視聴しておりました。その中で、博士の周りには、支える多くの方がいて、支えることが生きがいとなっていることを感じました。そして、誰にもできることやできないところがあり、支え合っていることを再確認しました。

川井小学校にはとても立派な図書館があり、司書の先生も常駐しています。ここでは、一冊の本との出会いを大切にしている取り組みがあります。司書の先生は、個別支援級、1年、3年、4年の学級に「3匹のかわいいオオカミ」などの新刊本や季節の本の読み聞かせをしていました。旭図書館からは、学校司書連携の二人が来てお話し会を開きました。2年生と3年生に学級ごとに絵本の読み聞かせとイギリス民話の語り、「大きい、小さい」という本のブックトークをしました。また、3年生は専科として図書担当教諭がビブリオバトルという取り組みをしていました。これは、児童同士が自分の好きな本を紹介し合い、グループや学級全体でその勝者を決めますが、勝つのは児童ではなく本なのです。この活動の目的は、児童が本と出会うこととそれを通してアウトプットの力を上げることです。ある日の練習で手ごたえを感じた児童は、次のバトルに向けて、もっと面白い言葉を本から探して、家で伝え方を練習してこようと言ってとても意欲的です。図書委員会児童は、11月の読書週間のために1年生に向けて読み聞かせの練習に取り組んでいます。他学年を意識して練習することで、更にプレゼンの力がつくと思います。多くの取り組みがあった10月の図書館では、全校児童の読書量の向上やシリーズ本の人気の向上があり、読書活動の成果を感じています。

一斉学習の中で積み重ねる学習は大切です。しっかりと話を聞く、丁寧に文字を書く、自分の思いや考えをきちんと述べる、わからないことは質問する、最後まで粘り強く取り組む…たくさんあります。さらにそれぞれの児童には学習を深める時期があり、それぞれのペースに合わせて最適に学んでいくための方法を、教師と共に探していきます。川井小学校の児童らの学ぶ意欲を大切に、生涯にわたって使える学び方を児童の中に育てていけるように努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。